



User Profile

大平洋機工株式会社

創 立 : 1984年7月

所 在 地 : 千葉県習志野市

事業内容 :

スラリーポンプ・汚泥ポンプ・
各種ミキサを中心とした一般
産業用機械製造業



基幹システムデータのリアルタイム活用で、現場業務の作業効率を大幅に改善！ ～長年利用した多次元DB型BIツールをData Knowledgeにリプレース～

スラリーポンプと多用途ミキサが強み

千葉県習志野市に本社を置く大平洋機工株式会社(以下、大平洋機工)は、幅広い分野に対応する付加価値の高い産業用ポンプ・ミキサを製品化することで、業界内で高い評価を受けている機械メーカーである。

「スラリーならばPME」をスローガンに、あらゆる流体輸送に対応できる技術を基にスラリーポンプ、ケミカルスラリーポンプ、汚泥ポンプ、水中汚水ポンプなどの各種産業用ポンプやマンホールポンプシステムの設計、開発、製造、アフターサービスを行っている。

主要製品に関し、ワーマンポンプはスラリー、ケミカルスラリーポンプの代名詞となっており、発売以来の納入台数は130,000台を超えている。ヒドロスタルポンプは下水処理、尿処理、製紙工業、食品、一般化学分野で活躍しており、特にスクリー一型の羽根車による無閉塞性や固形物を壊さず送る非破壊流送に特徴がある。またヒドロスタル水中ポンプは予旋回槽と共にマンホールポンプとして納入され全国で活躍している。

また、もう一つの粉体部門の柱であるミキサ関連機器においては混合・混練・乳化・分散などの試験の受託にも注力しており、化学工業原料だけ

ではなく食品や化粧品など顧客の持ち込んだ原料を使用した試験を行い、最適な仕様を導き出したうえでオーダーメイドのミキサ製造を行っている。試験過程で予想外の結果が得られたことで顧客の新製品開発のヒントになることもありこれらの試験そのものが付加価値の高いサービスとして大変好評を得ている。

基幹システム再構築で データ活用環境の見直しが課題に

2012年、大平洋機工ではこれまで国産汎用機上で稼働していた基幹システムをWindowsサーバーのシステムに移行する計画を進めていた。新システムは、生産管理システムを中核として、受発注処理、売上管理、在庫管理、入庫処理などのサブシステムからなり、汎用機で稼働していた基幹システムの全機能を網羅する大規模なシステムとなるため開発費用をいかに抑えるかが大きなテーマとなっていた。さらに、基幹システムではサポートできない帳票やデータ入手を目的として多次元DB型のBIツールを導入していたため、これらの機能についても同時に検討をする必要があった。

新システムの開発コストでまず課題となったの

が帳票開発費用だった。これまでの基幹システムでは、ユーザーの希望に合わせて約300種類の帳票を提供していたため、これら全てをそのまま移行すると膨大な開発費用がかかることが予想できたからだ。

「弊社には基本的にプログラマーがいないため、帳票開発はすべて外部委託になります。そのため、新システムでは最低限必要なものに限定して開発を行い、開発コストを減らそうと思いましたが、それではユーザーへのサービスレベルが下がってしまいますので、何としても我々が手軽に管理帳票を作成できる環境が必要と考えた訳です。」と、管理部 情報技術課 統括課長 山路 泰司 氏は語る。

一方、多次元DB型BIツールについては簡単に移行できると考えていたが、新システム対応には予想を大幅に上回る費用が必要になることがわかり、リプレースも視野に入れた検討をすることとなったが、理由はコストだけではなかった。

その理由を山路氏は「これまでのBIツールでは、事前に基幹システムのデータを多次元DBに格納する必要があるため、前日時点のデータしか提供できませんでした。また、準備した項目のデータしか入手できない為、他のデータベースに保存されているデータとの連携や、任意項目の追加

課 題

- 利用しているBIツールでは、今現在の状況が確認できない。また、準備した項目以外の利用が出来ない
- 基幹システムの再構築に伴う帳票開発費用が膨大になってしまう
- 今後も予想される臨時帳票の開発ニーズへの対応がこれまでの方法ではコスト高になってしまう

導入ポイント

- 基幹システムのデータを直接利用でき、柔軟なデータ加工処理もできる
- コストパフォーマンスが極めて高い
- 専門知識がなくても利用できる

導入効果

- 過去の傾向分析だけでなく、出荷業務などの日常業務にも活用できた
- ハード投資を合わせても、従来の1/3程度のコストで帳票開発ができた
- 今後は、管理帳票を開発委託する必要がなくなった

などのニーズには柔軟に対応することができませんでした。この点において、利用者の不満が多くあったのもリプレースに踏み切った大きな要因です。」と当時の様子を語る。

圧倒的なコストパフォーマンスと柔軟性で導入を決定

BIツールの選定に際しては、複数ソフトウェアとの比較検討を行った。その中で、Data Knowledgeが選ばれた最大の理由は、自分たちの手でいつでも最新データを抽出・加工し任意のレポートが作成できる点が評価されたからだ。

複数のデータベースからの抽出やPCデータの取り込み、複雑なデータ加工処理や任意項目の追加などができるため、前述のBIツールに対する不満を解消できるうえ、従来はEXCELにデータを取り込んだ後に行っていたデータ処理作業を大幅に削減することも見込めた。

また、Data Knowledgeの機能で特定グループに向けての情報提供と管理が容易に行えるため、基幹システムの帳票配信機能としての利用ができる点も大きな魅力となった。

さらに、これだけの機能を持ちながら、費用面では一番安価だった点が、Data Knowledge採用を揺るぎないものとしたのだった。

新基幹システムの帳票開発を 従来手法の1/3のコストで実現!

Data Knowledgeの導入によって、新基幹システムの開発コストは劇的に削減することができた。

現在、Data Knowledgeで作成している基幹システムの帳票類は約100種類あるが、これらを外部委託した場合の開発コストはData Knowledgeのライセンス費用等を合算した金額の3倍以上にもなる。

「初期費用だけでも劇的な費用削減効果となりましたが、私が期待するのは今後です。当然ですが、現場から追加帳票の要望は必ず出てきます。これらの対応を外部委託ではなく私たちが自分自身でできるようになったので、今後の効果は初期費用の比ではなく無限大であると思っています。」と、山路氏は満足そうに語った。

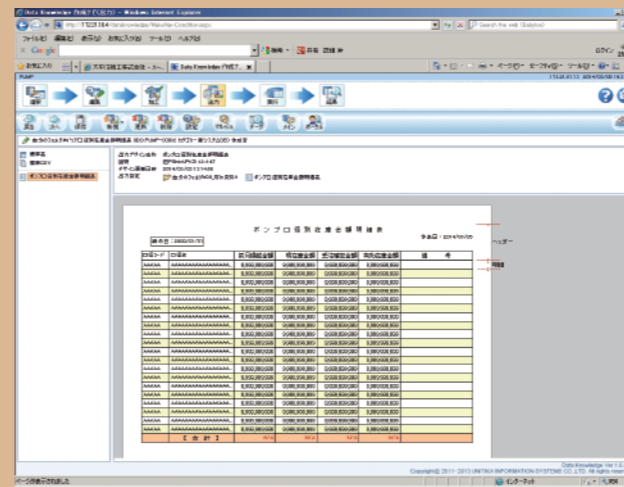
豊富な機能で 日常業務の作業効率を大幅改善!

大平洋機工におけるData Knowledge活用は、一般的なデータ分析だけではなく、日常業務をサポートする基幹システム帳票的な利用方法が多いのが特徴だ。

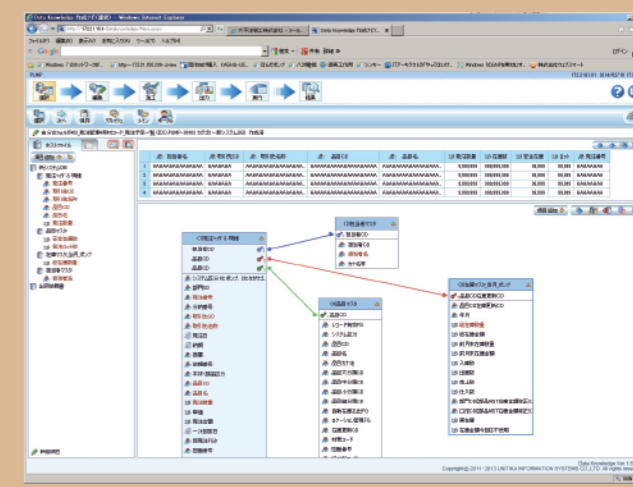
「毎日必ず出力するものの一つに出荷予定表があります。これは、出荷担当者や営業担当者が翌営業日に出荷されるものを事前に把握して、出荷内容のチェックや出荷準備を行うためのものなのですが、営業カレンダーを見て翌営業日を判断しなければいけない為、単純なデータ抽出機能だけでは処理ができません。Data Knowledgeは、このような処理も簡単に指定できるため様々なニーズへの対応が可能となりました。」と、管理部 情報技術課 主任 豊田 武司氏は語る。

出荷予定表以外にも、在庫金額明細表、図面制作発注・受注変更確認、素材コード発注予定一覧、受注台帳など、利用範囲は多岐にわたっているが、中でも非常に重要度の高い確認リストについては、Data Knowledge以外のソフトウェアとの連携により事務所に設置されている複合プリンターへの強制印刷を実現するなど、日常業務に必要不可欠なレポート処理のシステム基盤として活用されている。

「さまざまな情報を提供できる仕組みが整ったおかげで、現場担当者から管理職や役員まで、幅広く利用できるようになりました。現在は、生産系のデータが中心となっていますが、今後は経理データもあわせた原価計算表や役員意思決定に役立つ推移表関連を充実していきたいと考えています。」と、山路氏は今後の構想を語った。



出力(レポートプレビュー)画面



項目選択画面

株式会社 **クロスユーアイズ**
[大阪]〒542-0081 大阪市中央区南船場4-2-4 日本生命御堂筋ビル
[東京]〒140-0002 東京都品川区東品川1-2-5 NOF品川港南ビル

TEL.06-4708-5795
TEL.03-6712-4081

<http://www.xuis.co.jp/>

本パンフレット中の社名および商品名は、それぞれ各社の商標または商標登録です。

販売店名